



理工学部

定員 215 名

共生システム理工学科 (仮称)

- 情報理工学コース
- 分子デザイン科学コース
- メカトロニクスコース
- 環境システムコース



身につける能力

- 幅広い理工学的基礎知識と確かな専門性
- 学際的・国際的に実践する力
- 論理的で的確な立案力と決定力
- 積極的かつ持続的な貢献意識

地域の未来をひらく「科学と技術」を身につける

人・産業・環境が共生する社会を構築するために必要な学問を総合的・実践的に学び、21世紀の社会が抱える諸課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた「実践型エンジニア」を育成します。

学類長メッセージ

システム科学を志向しよう

高度情報化社会への対応、人支援技術と産業の創出、カーボンニュートラルの実現、自然環境・災害・温暖化と社会との関わり、これらの課題に取り組むための専門分野はさまざまにありますが、理学と工学、科学と技術、自然と社会をシームレスに俯瞰する視野をもつことが大切です。

理工系人材として巣立った皆さんに社会から期待されているのは、データや論理に基づく丁寧な説明力と的確な判断力であったり、卓越する技能や実践力です。皆さんは、21世紀の課題あるいは学問的興味にどのような専門性を備えて取り組みますか。専門性を磨くと共に、広い視野をもち多角的に物事を捉える素養とシステムとして物事を捉える思考が諸課題の解決には欠かせません。

理工学部は、人・産業・環境が共生する社会を構築するために、地球規模で顕在化している21世紀の課題の解決に貢献できる知識・技能と現場応用力を備えた理工系人材を育成することを教育目標としています。

大学入学はゴールではなく、スタートです。時には熱く、時には苦しくとも、知的な創造活動を皆さんと共に楽しむことを切に願っています。



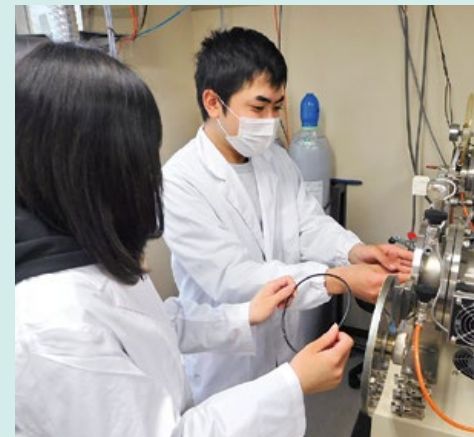
共生システム理工学類長 長橋 良隆 教授

理工学部の 特色

現代のさまざまな課題に挑む

4つの専門コース

変化の著しい高度情報化社会への対応、少子・高齢社会を見据えた人支援技術の創出、持続的かつ環境負荷の少ないエネルギーや物質の創出、自然災害や生態系の破壊などの環境問題への対応、これらの諸課題に貢献できる人材を育成するために、4つの専門コース(情報理工学コース、メカトロニクスコース、分子デザイン科学コース、環境システムコース)があります。



福島ならではの研究テーマを

フィールドワークで探究

教育・研究では、廃炉や除染に関する技術・地域産業支援・再生可能エネルギー・福島県内の動植物・猪苗代湖や阿武隈川など、福島県に關係する研究テーマを数多く扱っています。そのため、現場の見学やフィールドワークは大変重要であり、地域の課題にシステム思考で取り組む実践力を養います。



国の支援事業に採択され

高度情報専門人材を育成

2023(令和5)年に「高度情報専門人材の確保に向けた機能強化に係る支援事業」に採択され、情報領域の実習環境を充実させるとともに、情報領域の教員を新たに採用し、高度情報専門人材を積極的に育成します。



学びを
未来へと進化させよう!

学生に聞く

～ゼミを通して学んだこととは～

共生システム理工学類 4年
相澤 海瑛 さん

研究は試行錯誤の連続です。機械の物理的なトラブルやソフトウェアのエラーが起きるなど、1つの課題を解決しても次々に課題が生まれます。しかし、難しいからこそ期待通りの結果が出る達成感があります。それに、研究の進捗発表を通じてスムーズな情報の伝え方も学べましたが、ゼミではほかのメンバーと相談したり、お互いの研究から刺激をもらったりできます。まずは大学にどんなゼミがあるか調べてみてください。

※所属・学年は取材当時のものです

自分で正解を探すが、大切な経験に

教員に聞く

～ゼミで学ぶ意義とは～

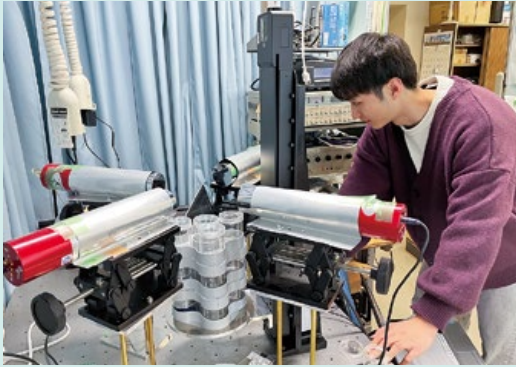
共生システム理工学類
衣川 潤 准教授

研究分野 ロボット工学、人間機械協調、製造の自動化

研究とは、これまでの勉強のように「正誤のある問題に答える」というものではありません。取り組むテーマはもちろん、何が課題で、どう解決に導きたいのかも自分で見つけます。ただ、テーマを決めることを急ぐ必要はなく、自分でさまざまな経験をして視野を広げてみてください。現在はAIがすぐに答えを出してくれる時代ですが、「自分で経験し、失敗しながら正解を探す」ということは、かけがえない体験であり、ゼミで学ぶ大きな意義だと思います。

基礎を積み上げ応用力を高めることで、
異分野の専門家と協働できる人材を育成

1 年次では数学、物理学、化学、生物学、地球科学、プログラミングなどを幅広く学び、
2 年次からは4つの専門コースに分かれて深く学びます。3 年次後期からは研究室に配属され、
各コースで学んだ知識を基に新しい知識を生み出す研究のプロセスを、教員や大学院生による
指導・助言のもとで体験します。研究室では、自分と異なる分野の専門家と適切な討論を行え
ることになることが重視されます。



取得学士号	学士（理工学）
取得できる 免許・資格	■ 中学校教諭一種免許状（理科/数学） ■ 高等学校教諭一種免許状（理科/情報/数学） ■ 学芸員資格

	1 年次		2 年次		3 年次		4 年次	
学びの目標	複数分野の理工系の基礎を学ぶとともに、 諸課題を学際的・システムの的に捉える力を養います。		コースの専門科目を学びながら、自分がどのような 分野で活躍したいかを見つけ、必要な知識や経験を 修得します。		より踏み込んだ専門的な知識・技能を修得するとともに深化させます。 その上で、4年間の学びの集大成として「卒業研究」に取り組みます。			
	第1セメスター	第2セメスター	第3セメスター	第4セメスター	第5セメスター	第6セメスター	第7セメスター	第8セメスター
専門教育	高校の学びを大学の学びに高め、諸課題をシステムの的に捉えるために、複数分野の理工系の基礎科目を学びます。		2年次の前期（3セメスター）から、4つのコースのいずれかに所属して専門領域を深く学びます。必要に応じて、社会科学系の科目を学ぶこともできます。			3年次後期（6セメスター）からは研究室に配属されて、演習や卒業研究を行います。		
	学部共通科目 ・共生の科学Ⅰ 接続領域科目 ・接続数学 ・接続理科 学部基礎科目 ・物理学Ⅰ ・化学Ⅰ ・生物学 ・数学Ⅰ ・プログラミング基礎 ・物理学Ⅱ ・化学Ⅱ ・地球科学 ・数学Ⅱ・Ⅲ ・環境放射能学概論（3セメ） 横断的に学問の面白さを学ぶための基礎内容を「接続領域科目」として学びます。さらに「学部基礎科目」を学ぶことで広い分野から自分の目指す専門分野を絞り込んでいきます。「共生の科学」などの科目で諸課題を学際的・システムの的に捉える力を養います。		2 年 次 前 期 から コ ー ス 所 属 情報理工学コース ・線形画像と幾何Ⅰ ・集合と位相Ⅰ ・計算機システム論 ・アルゴリズムとデータ構造Ⅰ データベースシステム ・ソフトウェア設計開発論 ・マルチメディアシステム論 ・ネットワークシステム ・人工知能と知識処理（6セメ） など メカトロニクスコース ・数理モデリング ・材料力学 ・物理学実験 ・制御工学 人間工学 ・量子力学 ・流体力学 ・デジタル信号処理 ・電子・生体工学実験 など 分子デザイン科学コース ・物理化学 ・無機化学 ・有機化学 ・分析化学 化学工学 ・再生可能エネルギーⅠ ・化学実験Ⅰ ・化学実験Ⅱ ・化学実験Ⅲ など 環境システムコース ・水循環システム学概論 ・環境計画論 ・気象学 ・生物・地球環境システム概論 環境保全論 ・地球環境科学実験 ・森林生態学 ・保全生物学実験 ・サイエンスライティング演習 など			3 年 次 後 期 から 研 究 室 配 属 4年間の指導体制 1年次から3年次前期まではグループアドバイザー（教員）が生活と修学の指導を行います。3年次後期からは研究室に配属され、研究室の指導教員が演習や卒業研究を指導します。		
基盤教育	アカデミックスキルズ科目 キャリア形成科目 健康・運動科目 キャリア設計科目 外国語科目 教養科目 自主学修プログラム							
自由選択領域	他学部科目 海外演習							
その他	特修プログラム							

情報理工学コース

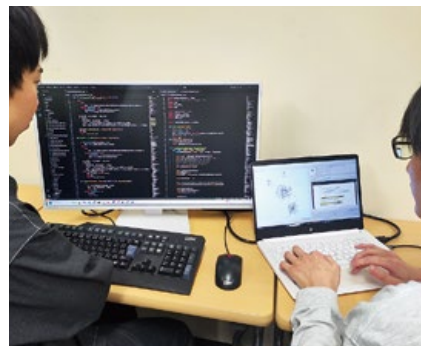
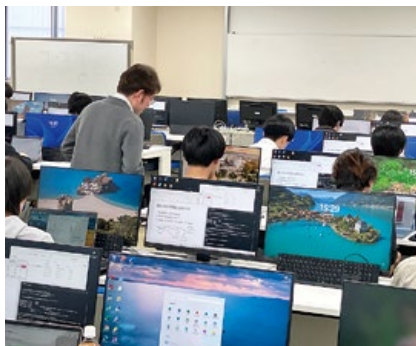
理論と実践力のバランスのとれた 情報人材を育成する

理論からシステム開発、実践までバランスのとれた能力を有した情報人材を育成します。特に、現実の事象のモデリングや分析を支える数学のスキル、ソフトウェアの設計開発に不可欠なネットワークやデータベース、人工知能など情報科学のコア知識とプログラミングスキル、さらに生産技術や物流などITの社会実装に必要な経営工学的な視野を備え、技術の変化に対応することのできる実践力を養います。

PICK UP!

ソフトウェア設計開発論

1年次から各授業で学ぶプログラミングやアルゴリズムなどの知識・スキルをベースとして、具体的なソフトウェアを作る工程について学びます。また、ソフトウェアの機能や必要な画面などを決めたり、それらを複数のメンバーで検討したりする「設計」、プログラムとして実現する「開発」、ソフトウェアが正しく動作するか否かを確認する「テスト」など、ソフトウェア設計開発のための主な作業を簡単な実例を交えて体験的に学びます。



メカトロニクスコース

物理学などを基盤に、技術やシステムの 創出を担う人材を育成する

人々の生活を豊かにする新たな「技術」や「システム」の創出を担うために必要となる、ものごとの基礎的理解から分析・設計・シミュレーション・実装・検証までの能力を有する研究者・開発者を養成します。そのために、物理学・機械工学・電気工学・人間工学・生理学を基盤として、要素技術や新たな測定手法、ロボティクスや生体医工学における制御技術・信号処理技術や人理解などの研究を通して、物・人・現象などのモデル化、システム設計、製作などの技術の体系的な学びを提供します。

PICK UP!

物理・システム工学演習

コース配属されたメンバー全員が受講する演習です。与えられたものづくり課題に小グループで取り組み、メカトロニクスコースにおける学びの基本姿勢である「工夫する」楽しさを体験します。またこの演習は大学院の講義(理工学セミナー)とリンクしており、同一課題に取り組んだ大学院生の成果をみながら、自らの取り組みを振り返り、さらに深い理解が得られように進められます。



物理学実験

物理学を学ぶ際には実際に自らの手で実験を進め自然との対話を訓練する必要があります。『物理学実験』ではそのために、力学、電磁気学、光学、熱学、量子力学などの各物理分野から選ばれた題材について、実験手法やデータ解析法を学びながら物理学の方法を身に付けてもらうことを目的としています。右の写真は、はじめて使うオシロスコープを院生の助言を受けながら操作し、実験を行っている様子です。



主な科目

- 線形写像と幾何 I
- 集合と位相 I
- 計算機システム論
- アルゴリズムとデータ構造 I
- データベースシステム
- ソフトウェア設計開発論
- マルチメディアシステム論
- ネットワークシステム
- 人工知能と知識処理 など

教員紹介 ※2026年4月1日現在

- 石岡 賢** (技術経営、製品開発戦略、マーケティング戦略)
- 石川 友保** (ロジスティクス、オペレーションズ・リサーチ)
- 内海 哲史** (情報ネットワーク)
- 大波 奨** (HCI、ソフトウェア開発論) ※
- 大沼 亮** (データ工学、ソーシャルメディア分析)
- 寛 宗徳** (経営工学、教育工学)
- 笠井 博則** (非線形偏微分方程式論、応用数学)
- ザビル サラウディン** (情報ネットワーク、ネットワークセキュリティ、IoT、人工知能の応用)
- 董 彦文** (経営情報システム) ※
- 中川 和重** (非線形解析)
- 中村 勝一** (データ工学、教育工学、HCI)
- 中山 祐貴** (HCI、情報視覚化)
- 西嶋 大輔** (環境システム分析、環境経済学)
- 長谷川 真吾** (暗号理論、情報セキュリティ)
- 樋口 良之** (経営工学、資源・廃棄物に関わる計画、管理、評価)
- 藤本 勝成** (非加法的集合関数、知能情報学)
- 三浦 一之** (アルゴリズム論、グラフ理論)

※特任教授

主な科目

- 数値モデリング
- 材料力学
- 物理学実験
- 制御工学
- 人間工学
- 量子力学
- 流体力学
- デジタル信号処理
- 電子・生体工学実験 など

教員紹介 ※2026年4月1日現在

- 稲田 シュンコ アルバーノ** (医用工学、光生物学)
- 衣川 潤** (ロボット工学、知能機械)
- 島田 邦雄** (流体工学、エネルギー工学)
- 情野 瑛** (ロボット工学、制御工学)
- 高橋 隆行** (ロボット工学、制御工学)
- 高原 円** (精神生理学、睡眠科学)
- 田中 明** (医用工学)
- 馬場 一晴** (素粒子的宇宙論)
- 松本 正晴** (計算科学)
- 山口 克彦** (物性物理学、放射線科学)
- 湯口 彰重** (ロボット工学、感覚計測)



DNA調査で 「ウサギの島」のルーツを探る

共生システム理工学類
環境システムコース
兼子 伸吾 教授

研究分野 保全生態学、分子生態学



植物や動物などの生態を調査して、保全や管理に役立てる「保全生態学」と、DNAを分析して生態を調べる「分子生態学」という学問の研究をしています。生態が分かれば、どのような対策や管理が必要なのか考えることができるので、生き物の未来につながる大事な研究です。

この学問は研究室での実験だけでなく、実際に野生動物が生息している場所に行きサンプルを採取するなど、フィールドワークも必要です。例えば、最近では絵本作家の館野鴻さんとの交流がきっかけで「大久野島(広島県)のウサギのルーツを探る」というテーマで研究に取り組みしました。

瀬戸内海にある大久野島は、約600羽の野生のウサギが生息する「ウサギの島」として知られる観光地ですが、ウサギのルーツははっきりしていませんでした。大久野島は昭和初期ごろに戦争用の毒ガスを研究していた島でもあります。島に関わる人や観光客からは、研究施設にいた実験動物の末裔説や、1970年代に島の小学校で飼育していたウサギの生き残り説などが注目されていました。

しかし、島でウサギの糞を200個以上採取して調べてみると、DNAには多様性がありました。仮に前述の説が正しい場合は、少数のウサギから増えたため「外見やDNAの違いが少ない」という分析結果になるはずですが。このことから「外部からさまざまなウサギが持ち込まれ続けていた」と考えられます。

こうした事実が明らかになれば、今後の保護方針や対応方法を検討するヒントになります。今回の研究については「うさぎのしま」(作: 近藤えり／たてのひろし)という絵本の解説でも触れているので、ぜひ読んでみてください。



大久野島での調査。島のウサギのエピソードは絵本になっていて、遺伝やDNAを知ってもらうために講義で絵本を使うこともあります



島で採取したウサギの糞からDNAを抽出。サンプル数が多いため、研究は根気のいる作業です

分子デザイン科学 コース

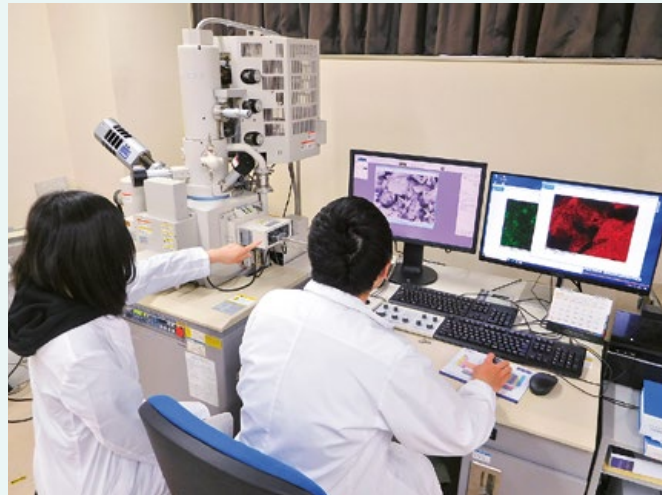
化学的知識を基に最先端の研究に取り組む クリエイティブな人材を育成する

高機能で環境負荷の少ない新しい物質や材料を生み出すために、また新しい省エネ・創エネ・蓄エネなどのエネルギー技術の開発のために、化学実験をはじめとするさまざまな「化学」を学びます。これを基に、小分子レベルからナノレベル、バルクレベルで物質や材料を捉え、現代社会における諸課題を解決するための最先端の研究に取り組めます。

PICK UP!

再生可能エネルギー I

地球温暖化の問題に伴い、温室効果ガスを排出抑制するため、化石燃料に代わる再生可能エネルギーの利用拡大が必要とされています。再生可能エネルギー I では、太陽光・バイオマスなどの再生可能エネルギーに関する知識を習得し、各技術の概要を理解することを目標とします。再生可能エネルギーに関する技術の概要を講義するとともに、国内での導入事例を紹介し、将来のエネルギーのあり方について考えるための素養を修得します。



主な科目

- 物理化学
- 無機化学
- 有機化学
- 分析化学
- 化学工学
- 再生可能エネルギー I
- 化学実験 I
- 化学実験 II
- 化学実験 III など

教員紹介 ※2026年4月1日現在

- 浅田 隆志 (環境衛生科学、バイオマス資源学)
生田 博将 (無機固体化学、固体電気化学)
猪俣 慎二 (無機化学、有機金属化学)
岩村 振一郎 (化学工学、材料化学、電気化学)
大橋 弘範 (物理化学、X線γ線分光学)
大山 大 (合成化学、金属錯体化学)
杉森 大助 (生物工学)
高貝 慶隆 (分析化学、分離化学、分子機能学)
高安 徹 (有機化学、構造有機化学)
中村 和正 (材料工学、材料物性、材料分析、固体化学)

附属水素エネルギー総合研究所

- 伊藤 博 (水素エネルギー変換工学)
島袋 出 (材料化学、複合材料、界面、キャパシタ)
大楽 武範 (核酸化学)
宗像 鉄雄 (伝熱工学、エネルギー工学) ※
諸岡 哲朗 (電気化学、燃料電池、界面化学)

※特任教授

特修プログラム

理工学部では、さらに高度な専門知識を学びたい学生のために、特定のテーマに沿った特修プログラムを設定しています。必要な単位を修得することにより各プログラム修了の認定を受けることができます。

放射線科学専修プログラム

原子力発電所災害をきっかけとして関心が高まった放射線について、科学的に理解し対応することのできる人材の育成を目指したプログラムです。「放射線取扱主任者」資格レベルの放射線科学に関する専門領域科目について、単位修得を課しています。



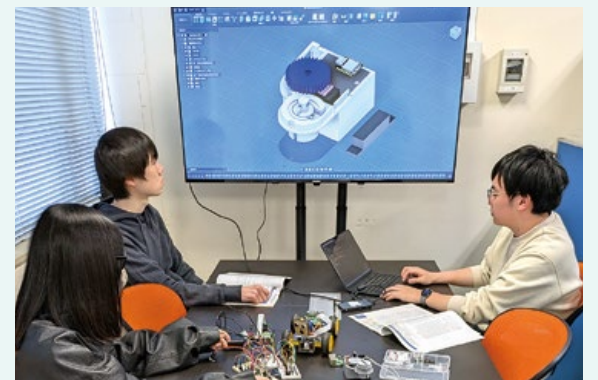
水素・再生可能エネルギー専修プログラム

水素・再生可能エネルギーに関する理工系的な知識修得を目的とした科目を多数設定し、複数のコースを横断した幅広いエネルギー教育を提供するプログラムです。



実践情報工学プログラム

学士課程から大学院までの学修を通して、情報工学に関する基本的な実践力を有した人材の育成を目指したプログラムです。そのために、大学院進学希望者を対象として、1) 情報工学に関する基本的な知識・実践力、2) 学士課程の段階から大学院での学びや修了後の活躍像を含めた志望分野に応じた視野を獲得するとともに、本プログラム受講者を希望コースに優先所属するインセンティブが与えられます。



環境システムコース

環境を多面的に捉え、 計画・管理する人材を育成する

環境をシステムとして多面的、体系的にとらえるために、環境に関する諸問題を、文理の垣根を越えて実践的に学び、研究するコースです。地球科学、自然史、生物多様性など自然環境に関する専門知識に加え、社会環境や文化環境に関する幅広い理解と自然を含む社会システムを多面的に計画・管理する能力を養うための学修・研究を行います。

PICK UP!

地球環境科学実験

地球環境科学実験では、地上で生じる様々な自然現象の原因となる地球環境の要素、状態を実験から学ぶことができます。地上を構成する地質の状態を把握するための実験や目に見えにくい地中を計測するための実験、地上の現象と切り離しをすることができない大気を解析するためのプログラミング技術を基礎から学ぶことができます。実験のグループ活動を通じて、先生の指導も受けながら、各自の考え方や意見も出し合い、地球環境の要素、状態を理解していきます。福島、および福島大学をフィールドにした調査に関する実験も進められ、意外に知らなかった身近な地球環境を知ることができます。



主な科目

- 水循環システム学概論
- 環境計画論
- 気象学
- 生物・地球環境システム概論
- 環境保全論
- 地球環境科学実験
- 森林生態学
- 保全生物学実験
- サイエンスライティング演習 など

教員紹介 ※2026年4月1日現在

- 兼子 伸吾 (保全生態学、分子生態学)
川越 清樹 (河川工学、水文学、防災工学、環境影響評価)
黒沢 高秀 (植物分類学、生態学、地域の植物相)
後藤 忍 (環境計画、環境システム工学、環境教育)
柴崎 直明 (地下水盆管理学、水文地質学、応用地質学) ※
塘 忠顕 (昆虫の比較形態学、地域の昆虫相・カニムシ相)
長橋 良隆 (地質学、火山地質学、第四紀地質学)
永幡 幸司 (サウンドスケープ)
難波 謙二 (環境微生物学)
廣田 峻 (植物生態学、進化生態学、保全生物学)
横尾 善之 (流域水文学、水資源工学)
吉田 龍平 (気象学、応用気象学)

※特任教授



共生システム理工学類生の 1週間 & 4年間 の学びをのぞいてみよう！

学校の先生を
目指しているので
関連の講義を積極的に
受講して
います



共生システム理工学類 1年
佐伯 昂哉 さん

夢中になっていること
旅行
(47都道府県制覇が目標)

所属サークル
福島学生“源種”～seed～
(よさこいサークル)

将来の夢
中学校か高校の先生になって
数学や情報を教えたい

	月	火	水	木	金
1	日本国憲法01	化学Ⅱ C言語の基礎を 学んでいます	地域と世界の未来を つくる科学 毎回違う先生が研究や 事例を解説してくれます	ちからとうごき 一般の聴講者もいて、 ディスカッションできます	英語AⅡ12 福島の問題解決を考えます
2	英語AⅠ16	プログラミング基礎	戦争と平和の倫理学	ふくしま未来学入門Ⅱ (メディア授業)	
3	地球科学	ドイツ語基礎Ⅱ	ドイツ語基礎 (特設)Ⅱ	スポーツ実習	
4	数学Ⅲ(統計学)	数学Ⅱ (線形代数)			
5	問題探究セミナーⅠ	2年次のコース配属に ついて考えます			行列とベクトルⅡ

Comment

福島大学はデータサイエンス教育に力を入れているように、数学や情報分野で学びを深めることができます。大学の講義は専門性も高くなり難しいと感じることもあります。学ぶ中で新たな発見も多く、毎日が楽しいです。

サークル活動

「福島学生“源種”～seed～」というよさこいサークルに参加しています。「魅了する喜び」をモットーに全国各地の大会で踊っています。フレンドリーな先輩方ばかりなので、ダンス未経験でも安心です。心ひとつにして踊るのは達成感もありますよ！



4 years

共生システム理工学類 3年
鈴木 菜々美 さん

夢中になっていること
ネットで映画やアニメ鑑賞

所属サークル
なし

将来の夢
放射線量分析などの研究で
廃炉の役に立ちたい

コースや研究室を
選択する前には
情報収集が大切

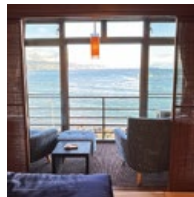
1年次	2年次	3年次	4年次	卒業後
理系の学びを 深めながら コース選択を考える	座学より 実験やレポートが 多くなる時期	研究室への配属は 10月から	卒研とゼミで 自分の研究テーマに 取り組む	研究者を目指して 大学院へ
理系に興味を持っていたので、化学や物理に関する講義を積極的に選択しました。そのほかにも英語、プログラミングなどを学びながら、2年次にどのコースを選ぼうか考えていました。	2年次になると実験やレポートで忙しくなります。課題の提出にはパソコンの表計算ソフトを使うことが多いので、実験機材の扱いだけでなくパソコンの基本操作も覚えておくこととスムーズに進みます。	3年次になると一部の専門的なもの以外は、ほぼ講義は取り終わっています。研究室への配属は10月からで、自分の研究テーマを考えたり、研究室の機材の使い方などを学んだりしていきます。	卒業研究が本格的にスタートします。自分のテーマを決めてゼミで専門的な学びを深めます。先生のアドバイスを参考にしながら、実験や分析を重ねて研究をまとめ、卒業論文を完成させます。	私は研究職を目指しているので、大学院に進む予定です。学部での学びを発展させて、放射線量の測定をより速く正確にできるように機材の運用方法などを研究したいと考えています。

Comment

高校の授業は座学がほとんどかと思いますが、大学では実験結果を考察したりレポートを書いたり自分で課題解決に向けて動く学びが中心となります。難しい内容も多いですが、きちんと成果が出れば達成感があります。

Best memory

大学生活では長期休暇を自分の可能性を広げる時間として使えます。私は旅行が好きなので、アルバイトをしてお金を貯めて旅行プランを考え、さまざまな場所に出かけました。一番の思い出は熱海で温泉に泊まったことです！

地域で活躍する
先輩たち

福大発 ▶ 社会人



国立研究開発法人 日本原子力研究開発機構

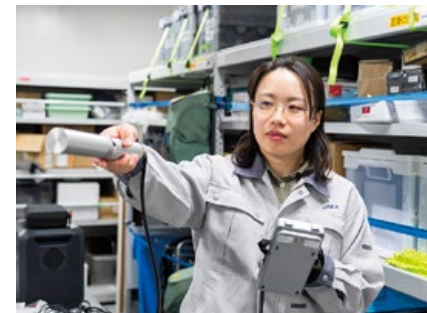
佐々木 美雪 さん(共生システム理工学類研究科博士前期課程 物質科学分野 2015年修了)

放射線計測の研究を通じて廃炉や復興の力に。
福大での学びが研究者としての糧になりました

原子力に関する総合的な研究開発を行う国立研究開発法人である「日本原子力研究開発機構(JAEA)」という機関で、放射線計測について研究しています。JAEAは全国に拠点があり、私は南相馬市にある研究施設で、福島第一原発事故後の周辺地域の線量調査や原発内での計測に携わっています。

具体的には原発の周辺地域での空間線量データを集めて解析し、変化を記録したマップを作成するという作業ですが、このマップをもとに国や自治体で帰還困難区域の解除などを検討するため「人々の暮らしに関わる大事な仕事」というやりがいがあります。

自分が研究職に就くにあたり、福島大学でさまざまな学びを深められたのは大きな糧になったと思います。皆さんも自分がどの分野に向いているのか確かめるためにも、幅広く講義を選択してみてください。



卒業後の主な進路

【情報理工学コース】 ■ ソフトウェア・情報通信業 ■ 製造業(ソフト設計、生産管理) ■ 運輸・サービス業(分析部門)	【メカトロニクスコース】 ■ 電機・自動車・プラント関連製造業 ■ 医療・福祉機器関連製造業 ■ 電子・情報通信関連企業	【分子デザイン科学コース】 ■ 化学関連製造業 ■ エネルギー関連企業	【環境システムコース】 ■ 水・環境・防災関連企業 ■ 環境・建設コンサルタント ■ 博物館の自然史系学芸員	【その他】 ■ 大学院進学 ■ 中学校・高等学校教員(理科・数学・情報) ■ 国家公務員および地方公務員(技術職・総合職)
---	---	---	---	--

※所属は取材当時のものです

夢を芽吹かせた先輩に
聞いてみよう！



大学の学びで一番よかったところは？

福島大学の魅力の1つは「先生方との距離が近い」ことです。自分の学部や研究室に限らず、どの先生にも話しかけやすい雰囲気がありますし、質問に対しても気さくに応えてくれます。先輩ともつながりが生まれるので、どんどん先生に話しかけてみましょう。

夢を叶えるためにがんばったことは？

在学中に「放射線取扱主任者」という国家資格を取得しました。この資格は第1種と第2種があり、福島大学では放射線科学専修プログラムを通じて第2種の取得を目指せます。また、より高度な第1種への挑戦もサポートしてもらえます。

後輩へのメッセージをお願いします。

大学で学ぶ中で、自分の得意・不得意な分野や、より興味がある分野を見つけるのが大事だと思います。そのためにも、さまざまなジャンルに挑戦してみましょう。自分の中で方向性が定まれば進路選択や就職活動に役立ちます。

※所属・学年は取材当時のものです